

八木当についての説明 ロールプレイング時に参考にしていただけると

八木当

身体、自認ともに男性

21才

手品や大道芸、アクロバットなどで路上ライブやサーカスへの出演などを行い生計を立てている。仕事柄ピエロの恰好をしたり、おどけた振る舞いをすることが多いため明るい人物だと思われるがちだがプライベートではそこまで明るい性格というわけではない。

非常に正義感が強く、積極的に人助けを行い、善人に対してはどこまでも底なしの優しさを持つ。半面、悪人に対しては非常に残忍な顔を持ち一切の慈悲を見せることなく敵として処断する。

高校生の時、当時の2才年下の彼女が心疾患によって病死しておりそのことが3年たった今でも彼に大きな影響を与えている。彼女は自分より若く、聡明で、優しくかったと彼は思っているため、そんな彼女が死んでしまったという理不尽にたいし、強い憤りを感じると同時に、果てしない無力感と自己嫌悪を抱えている。

彼女の死から数日。彼は、彼女が自分を呼ぶ幻聴に導かれ、たどり着いた路地裏で、一人の女が複数人の男達に無理矢理犯されている現場を目撃する。

優しく、聡明で、清らかな彼女が生きていることを許されなかったのに、あんな輩が生きてていいのだろうか？いや、生きてていいはずがない。彼らも、自分も、生きててはいけないんだ。

そう思考した末、彼はその場にいた男たちを魔法で皆殺しにした。そして、その日を境に彼は魔法を用いて人知れず法の裁きを逃れた犯罪者たちを殺害して回った。その数は3年間で108人。汚れた自分の手で清らかな善人たちを汚さないために彼は常に手袋を身に着けている。